

【参考】「エコマーク表示」アンケートの結果について^注

財団法人日本環境協会
エコマーク事務局

去る 7 月、エコマーク商品/支払担当者の皆様に、「エコマーク表示」に関して、アンケートへの協力をご依頼しましたところ、多数のご回答をいただきありがとうございます。簡単ですが、以下の通りご報告します。

1. アンケートの実施

- 1) 対象：平成 22 年 7 月時点のエコマーク認定取得企業 1681 社の商品/支払担当者
- 2) 期間：平成 22 年 7 月 15 日(木)から 7 月 30 日(金)
- 3) アンケート送付方法
 - ①エコマークニュース送付時にアンケート用紙を同封（1496 担当者）
 - ②メールマガジン「エコマーク広報」臨時号を送信（1866 担当者）→①②両方の担当者が 1176 人であったので、送付対象実数 2186 人
- 4) 回収状況
 - ①認定企業ベース 560 社（33.3%）、②担当者ベース 589 人（26.9%）

2. アンケートの設問と回答結果

- 1) 設問と回答状況：別紙 1, 2 に設問内容を示し、あわせて具体的な回答数を整理した。
- 2) 回答結果の概要
 - ①[設問 1]に関して：商品本体、個別包装にエコマークを表示している事業者は、回答者の 70%にのぼった(複数回答を考慮)。カタログに表示しているのは 47%、何の媒体にも表示していないのは 10%であった。
 - ②[設問 2]に関して：「表示スペースがない」、「中間製品のため」等の理由が上位を占めた。
 - ③[設問 3]に関して：「現状のままでよい」を選択した回答者が 61%にのぼるものの、マーク表示に向けて、表示の何らかの簡素化を望む回答者が 41%あった。
 - ④[設問 2]、[設問 3]、[設問 4]の自由記述欄に関して
マーク表示の重要性を強調する意見があった。一方、マーク表示に関して、改版のコストや手間等に触れる記述、あるいは刻印等の印字方法による表示のしにくさに言及する意見も多かった。また、「マーク表示の規定が変わり、現在製品等に表示しているエコマーク表示を変更する必要があるのではないか」との懸念が散見された。

3. 今後の方針

今回のアンケート結果を参考にして、エコマークの信頼性を確保しつつマーク表示のユーザビリティを向上する方策について、エコマークの各委員会に諮りながら検討を進めたい。

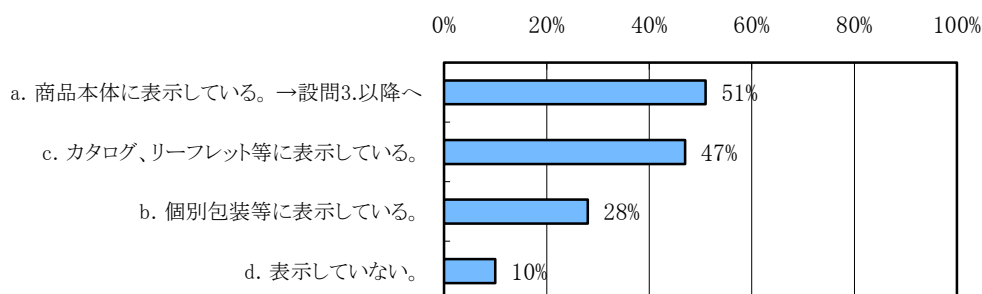
以上

【設問1】認定商品にエコマークを表示されていますか？（複数回答可）

（設問1に対する回答者数＝ 584）

選択肢(注:下記選択肢は、回答数にしたがって、並べ直している。)	回答数	%
a. 商品本体に表示している。→設問3.以降へ	295	→ 51%
c. カタログ、リーフレット等に表示している。	276	→ 47%
b. 個別包装等に表示している。	163	→ 28%
d. 表示していない。	61	→ 10%

％の欄は、各設問の回答者数に対する割合。設問1では、584が分母。



【設問2】設問1.で「a. 商品本体に表示している」を選択されなかった方に理由をお尋ねします。

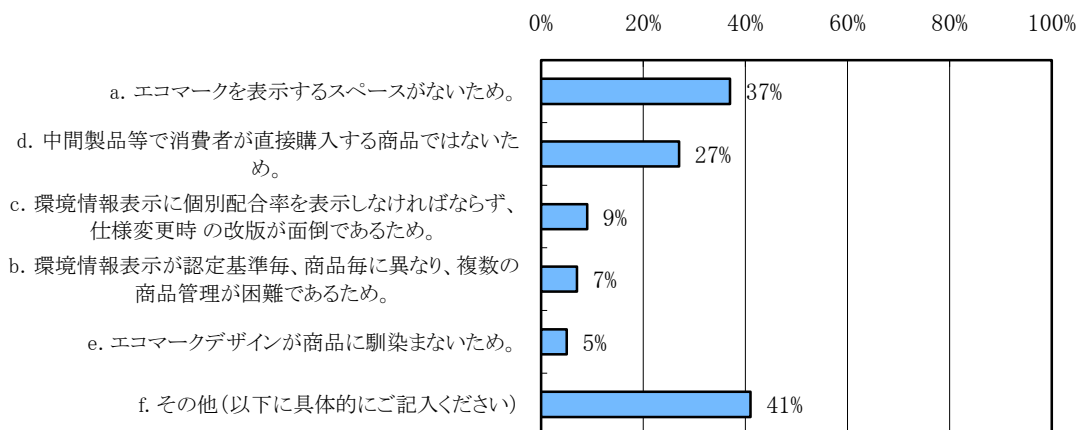
（複数回答可）

<参考>「環境情報表示」とは、<http://www.ecomark.jp/img/ank1.gif>

（設問2に対する回答者数＝ 292）

選択肢(注:下記選択肢は、回答数にしたがって、並べ直している。)	回答数	%
a. エコマークを表示するスペースがないため。	109	→ 37%
d. 中間製品等で消費者が直接購入する商品ではないため。	78	→ 27%
c. 環境情報表示に個別配合率を表示しなければならず、仕様変更時の改版が面倒であるため。	27	→ 9%
b. 環境情報表示が認定基準毎、商品毎に異なり、複数の商品管理が困難であるため。	20	→ 7%
e. エコマークデザインが商品に馴染まないため。	16	→ 5%
f. その他(以下に具体的にご記入ください)	120	→ 41%

％の欄は、各設問の回答者数に対する割合。設問2では、292が分母。



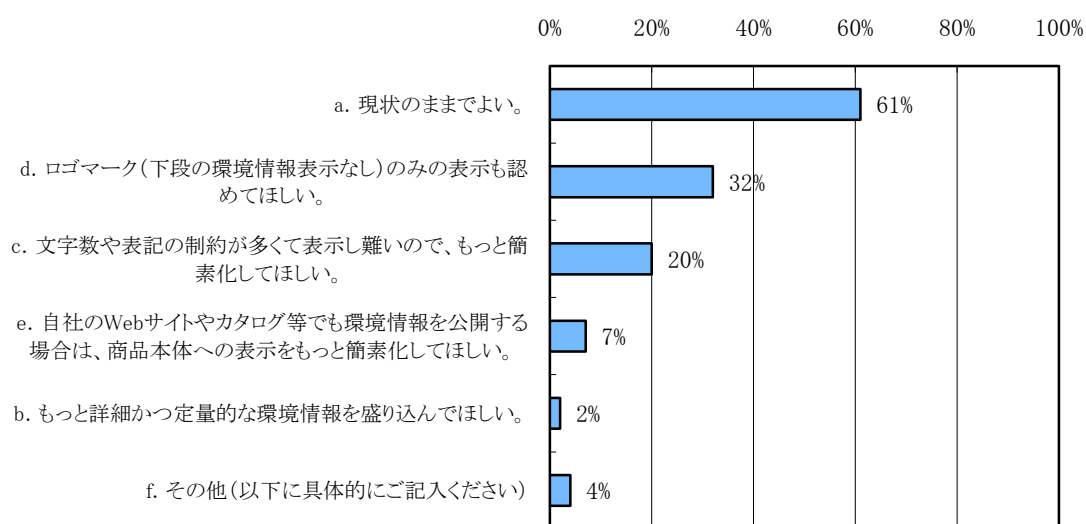
【設問3】エコマーク下段の「環境情報表示」について、ご意見をお聞かせください。(複数回答可)

<参考>「環境情報表示」とは、<http://www.ecomark.jp/img/ank1.gif>

(設問3に対する回答者数= 577)

選択肢(注:下記選択肢は、回答数にしたがって、並べ直している。)	回答数	%
a. 現状のままでよい。	352	61%
d. ロゴマーク(下段の環境情報表示なし)のみの表示も認めてほしい。	186	32%
c. 文字数や表記の制約が多くて表示し難いので、もっと簡素化してほしい。	114	20%
e. 自社のWebサイトやカタログ等でも環境情報を公開する場合は、商品本体への表示をもっと簡素化してほしい。	42	7%
b. もっと詳細かつ定量的な環境情報を盛り込んでほしい。	11	2%
f. その他(以下に具体的にご記入ください)	25	4%

%の欄は、各設問の回答者数に対する割合。設問3では、577が分母。



以下は、設問内容のみを示した。(設問2、設問3の自由記述欄、および設問4の自由記述については、冒頭ページに代表的な意見を記載した。)

【設問4】エコマーク表示について、使用・表示しやすさの観点から、こういう表示方法も認めてほしいなど、ご意見・ご希望等ございましたら是非ともお聞かせください。(以下に自由にご記入ください)

【設問5】貴社のエコマーク認定商品の類型番号(認定番号8桁のうち左から3-5番目の3桁番号)がおわかりでしたらご記入ください。

<参考> 認定商品情報から会社名で検索可能です。 <http://www.ecomark.jp/>

Appendix

商品類型の特性に着目したアンケート結果の簡単な考察

「消費者に身近な商品」と「産業資材関係商品」に商品類型を限定してアンケート結果の回答を整理した（表1，2）。ここで、「消費者に身近な商品」と「産業資材関係商品」を代表させた商品類型は下記のとおり。

1) 消費者に身近な商品（回答数135）

108衛生用紙、112文具・事務用品、128日用品、140詰め替え製品（数字は商品類型の番号）

2) 産業資材関係商品（回答数88）

123, 137, 138建築製品、131土木製品（数字は商品類型の番号）

「消費者に身近な商品」と「産業資材関係商品」との比較では、「消費者に身近な商品」ほど、商品本体に表示している割合は高くなっている。このことから、エコマーク表示による売上増や商品の訴求に対する事業者の期待が高いことがうかがえる。しかし、「消費者に身近な商品」において商品本体に表示していないと回答した理由としては、「エコマーク表示のスペースがない」ことを理由に挙げる割合が高く、次いで「環境情報表示」に関する内容が多くなっている。また、本体への表示有無に係わらず、「環境情報表示」に関する設問では簡素化やロゴマークのみの表示を求める声が多かった。

一方、「産業資材関係商品」では、中間製品であったり、消費者が直接購入する商品ではないため、カタログ・リーフレット等に表示している割合が高かった。

表1 「消費者に身近な商品」での回答状況
(108衛生用紙、112文具・事務用品、128日用品、140詰め替え製品)

	設問1	設問2	設問3
回答者数	135	40	135
選択肢a	95 (70%)	22 (55%)	80 (59%)
b	60 (44%)	5 (13%)	1 (0.7%)
c	53 (39%)	10 (25%)	34 (25%)
d	10 (7%)	6 (15%)	57 (42%)
e		8 (20%)	14 (10%)
f		26 (65%)	2 (1%)

表2 「産業資材関係商品」での回答状況
(123-137-138建築製品、131土木製品)

	設問1	設問2	設問3
回答者数	88	66	88
選択肢a	22 (25%)	21 (32%)	51 (58%)
b	24 (27%)	4 (6%)	1 (1%)
c	67 (76%)	6 (9%)	16 (18%)
d	12 (14%)	16 (24%)	30 (34%)
e		4 (6%)	8 (9%)
f		36 (55%)	8 (9%)

注：設問1，2，3ならびに選択肢の内容は、前ページ別紙1，2を参照。
表中（ ）内の数字は、各設問の回答者数に対する割合。